

市民と共に決める、今治の明日、

## 未来への新しい風

今治を愛するすべての市民に向けて ～ **3つの柱で今治大選択**

今、ウィズコロナの時代、アフターコロナの時代です。一番大切なことは命を守ること、高齢者の命、女性の命、子供たちの命を守ること、そして、仕事を守ること。コロナの時代はいつか終わります。来年の春かもしれません、1年後かも知れません。その時、新しい生活様式、仕事様式、産業様式で地域の間で、企業の間で、日本の中で、世界の中でさらなる発展に向けて競争が再び始まります。そして、その競争は、もう始まっているのです。

その準備をするのは、いつなのか？それは今です。ウィズコロナの時代の後にアフターコロナの時代が来るわけではありません。二つの時代が同時に進行中です。

今、全集中で、ウィズの時代への対応と、アフターの時代への準備の二つを同時に考える時です。デジタル化をフル活用し、市民の力を一つにまとめ上げ、発展に向けての戦いの火ぶたは、既に切られています。4年後からでは手遅れです。

4年後の市政の交替は、4周遅れでスタートする陸上競技のようなもの！他の自治体、企業に勝てるでしょうか。4年後に再び違う列車に乗り換えて目的地に向かう？そんなスピード感で大丈夫なのでしょうか？今すべきなのか、4周遅れのスタート、途中の乗り換えは、市民のためになるのか、私も迷いました。

多選問題や市民の声もありますが、危機感、使命感が私を突き動かしました。今日、県議であることより今治市民であることを選択しました。新しいページを今日からめくります。今治を愛するすべての市民とともに、今治の明日のために、未来への新しい風を起こすために。

徳永しげきは、『瀬戸内クロスポイント構想』の視点で次の3つの政策の大選択を提言します。

市民が投票などを通じて自分たちの声を届けることは、基本的人権です。また、市長が、その市民の声を聴くことは基本的な義務だと、私は考えています。市民の意見を聴くことを義務付ける条例の制定は、そのような私の政治信条を実現するものです。直ちに条例制定に取り組みます。3つの政策の大選択は、市民の皆さんのご意見を聴きながらを財源を確保し、実現に力強く取り組みます。

市民と共に決める、今治の明日、**未来への新しい風** 3つの柱で今治大選択

柱:「市民がどまん中」の視点で市民の役に立つ市役所へ

柱:【地域経済対策】市民の命を守り「商いができる」今治の実現

柱:【今治市の将来】「ひとりひとり」が輝く今治をみんなで創出

# I「市民がどまん中」の視点で市民の役に立つ市役所へ

エネルギーの地産地消など多様な手法で財源捻出、財源確保し、市民の意見を聴くことを義務付ける条例を制定します。365日相談駆け込み寺の設置、地域のことは地域で決められるしまなみ総合事務所の現地設置検討などで市役所を高い住民サービスが実現できる超スマート自治体に体質変革します。

## 1 聖域なき財政・市民負担の総点検で、財源捻出、財源確保

○歳出のゼロベースからの見直し ○魅力ある特産品でまだまだできる「ふるさと納税」のパワーアップを実現し、財源を確保 ○ふるさと未来投資のクラウドファンディングの導入による財源確保 ○管理職の女性比率の向上を図り、市役所での女性活躍社会を実現 ○海運産業の振興と船舶のフラッグバック(旗国変更)の促進

△・外郭団体の統廃合等による業務の効率化 ・住民参加型ミニ市場公募債の発行、ESG投資の活用など財源確保手法の多様化 ・女性職員の採用、中途採用比率の拡大、民間企業との交流拡大等による民間活力の活用促進 ・民間活力を導入した市立図書館のデジタル化を推進し、Web図書館機能を持たせ、市民や市外の人へも開放

### ◇エネルギーの地産地消

・再生エネルギーなどのエネルギーの地産地消で、財源確保と地域活性化

## 2 賢い支出(ワイズ・スペンディング)で市役所の行財政改革

○市有財産の有効活用促進 ~企業経営と同様に、持ちすぎた資産は、固定経費を生み出し、市政経営を圧迫する。持ち続ける財産と、処分する財産を振り分け、負担を軽減するとともに有効利用を真剣に考える必要がある。

○オープンカウンター方式の導入 ○「年度末の予算使い切り」の廃止

## 3 「ハコ物」事業、大規模事業を市民の目で再点検

○「ハコ物」の維持管理費の後年度負担を再チェック

◇「ハコ物」や大規模事業を決める前に市民の意見を聴くことを義務づける市民参画条例(仮称)の制定

## 4 デジタル化の加速で市民サービス(QoS)の向上、超スマート自治体へ体質変革

○何でも相談できる365日駆け込み寺「総合相談窓口」を創設し、市民も事業所もサポート ○しまなみ総合事務所(仮称)の現地設置を検討し、地域のことを地域で決める体制整備 ○若手職員を加えた組織横断組織「今治版 Society5.0推進本部」(仮称)の設置 ○Society5.0(新スマート社会)に対応したハイスpekブロードバンド基盤の整備促進 ○都心部と同じように働けるIT環境の早期実現 ○4つのレス:ペーパーレス(ファックスレス)・はんこレス・キャッシュレス・タッチレスの実現

△・地域担当職員の配置など市民にやさしい市役所へ再編 ・ICT/AI、5Gの「爆走」デジタル化に挑戦する、戦う「IT推進課」(仮称)の創設 ・行政手続のオンライン化、ICTを活用した市役所業務の効率化、公務員の意識改革 ・AIやRPAなどの最新技術を駆使して業務代替を推進し、一層の市民サービス高度化、利便性の向上 ・感染症・災害対策などに備えた広域連携強化 ・ICT活用で充実した住民福祉の維持 ・持

## 5 公の施設等見直し

### ◇有効活用システムの導入

- ・図書館など公の施設、公共施設を施設管理、運営面から徹底検討
- ・民間事業者の参入を促進し、テーマパーク化を図り、利用率の向上、発信力の強化、採算性の向上で、市民に親しまれる施設に再生

4つの市立図書館、村上三島記念館(今治市)、上浦歴史民俗資料館、玉川近代美術館など多くの市の施設があり、必要に応じ民間事業者の参入を促進し、テーマパーク化を図り、併せて、利用率の向上、発信力の強化、採算性の向上を行う。

**ウィズコロナの時代、アフターコロナの時代と、「若さ」と「行動力」を武器に先頭に立ち、市民の皆さんとともに全力で戦います。命と仕事と地域を全力、全集中で守り抜きます。**

### 緊急対応

## 市民を守る新型コロナウイルス感染拡大防止策の更なる強化

### ●感染拡大の防止・感染症対策の強化

- 今治版疾病対策予防チームの創設
- 医療機関・社会福祉施設における感染防止策の強化
- 重症・軽症患者の医療体制の整備
- 市民への関連情報の提供体制の強化
- △PCRほか各種検査体制の強化
- ・病院・医療従事者へのサポート強化、感染管理認定・看護師等の取得支援
- ・救急搬送体制の強化
- ・マスク・消毒液などの衛生資材の備蓄強化
- ・ワクチン接種、抗体検査の促進
- ・空き病床状況などの感染関連情報の把握・公開の強化
- ・オンライン診療の拡大
- ・人工呼吸器など設備支援
- ・専門医療機関のあり方検討
- ・地域の医療機関への支援・連携の見直し強化
- ・県と連携した水際対策の強化
- ・高リスク業態への働きかけの強化(今治版ガイドライン作成・対応への支援など)

### ●セーフティネット機能の強化

- 県立今治病院の建て替え促進と医療提供体制の充実
- 生活資金・快適住まい確保等のセーフティネット機能の強化
- △買い物弱者への支援強化

## II 市民の命を守り「商いができる」今治の実現

瀬戸内クロスポイント構想を提言します。デジタル化とトップセールスで今治経済の「新しい成長」ステージを切り開くこと。地域版総合商社を設立し、トップセールスに徹すること。初めての本格的な若者を対象にした創業・起業支援施設を整備すること。島と海と陸をつなぐ魅力あるまちづくり、農林水産業、商業、製造業の産業づくり、人づくりを推進すること。人、文化、歴史を大切にしたい今治のパワーアップを実現すること。コロナから命を守り、全力投球します。

# 『瀬戸内クロスポイント構想』の提唱

瀬戸内海の“へそ”を生かし、デジタル化の加速に対応できるように

産業、観光、暮らしの拠点へ若さを活かし、トップセールスを展開

## ワクワクするまちをみんなで創る

中心市街地のリポーン、医療提供体制の充実、スポーツでまちに人を呼び込む  
仕組みづくり、地場産業の支援と「起業」促進、誘致 など



## 島しょ地域へ思いった政策を実行

通行料軽減を視野にしまなみ海道で島民生活を強力支援、空き家活用、耕作放棄地対策、自転車活用推進 など

国の地域経済循環分析手法により「経験と勘」だけに頼らない実効性の高い政策立案の取り組むべきです。今治市に「エネルギー代金の流出」、「民間消費の流出」、「民間投資の流出」はありますか？地域で付加価値を稼いでいる業種がわかりますか？

地域経済循環分析により生産、分配、支出での資金の流れの「見える化」をし、「地域に稼ぐ力があるか？」、「地域住民の所得がいくらか？」、「地域からどの段階で所得がどの程度漏れているか？」、「地域の産業構造は？」、「地域からエネルギー代金の流出はどの程度か？」などの地域の経済の特徴(長所・短所)を分析することが可能になります。

地域経済循環分析により「経験と勘」だけに頼らない「定量的なデータの分析・検証」に基づくアプローチにより今治市のさらなる成長のためにクリアすべき課題や目標となる数値指標などを明確にし、実効性の高い政策立案の取り組むべきです。もう、他の自治体では活用が始まっています。

■資金、消費、投資の流出を流入に変えるために、地域で所得が循環するために、徳永しげきは、  
・「市長が今治市の営業部長になります」～若さ・情熱・行動力を活かし、トップセールスで強力に販路開拓  
・「市長が広告塔！」で、今治の歴史・文化の財産、観光資源、素晴らしい工業製品・商品、超一級品の自然の農林水産物を情報発信

に挑戦し、瀬戸内海のへそ「クロスポイント」である今治市に所得を、活力を取り戻します。



## 1 デジタル化の加速で今治の経済を「新しい成長」へ

### ●コロナ時代の「新しい日常」への移行支援

- 業態転換へソフト面などを支援する今治チェンジビジネスサポート協議会(仮称)の設立
- 「帰って来いよ、故郷で働こう」運動の提唱
- サテライトオフィス・シェアオフィスの整備支援の強化 ○「サステナブル・リカバリー」(持続可能性にも配慮した経済復興)
- △・感染拡大防止と社会経済活動が両立した「新しい日常」の確立 ・3密を避ける働き方の定着・制度化 ・市内企業の「新しい日常」への移行・今治版ガイドライン遵守への支援 ・医療機器や感染症予防商品など感染症対策関連産業への支援強化 ・スタートアップによる非対面・非接触(タッチレス)の新ビジネス支援: ロボット・Web 会議システム等 ・4つのレス:ペーパーレス(ファックスレス)・はんこレス・キャッシュレス・タッチレスの実現 ・環境対策やスマートエネルギーの街づくりを加速推進する今治市版グリーンボンド(ミニ地方債)の発行検討

### ◇コワーキングを持つ起業・創業支援施設インキュベーションの設置

公・民の遊休施設などをリノベーションして活用し、ワークスペース、レンタルスペースを有した貸しオフィス施設を整備。高速通信機能環境を整備し、安い賃料と支援機能を有し、若者、女性、移住者などの起業・創業を手助けする。大都市圏の企業のサテライトオフィスとして利用する。併せて、周辺に飲食実験ゾーン、IT、デザイン等のソフト企業実験ゾーン、小規模なモノづくり実験ゾーンを用意し、実際に創業し、まちの活力復元を促進。

### ●産業と仕事支援

- ITしごと誘致特区を設置
- 経験を活かす「ふるさとで働く」ウィズコロナ時代の今治出身者のUターン就労支援
- ICT版「今治タオルプロジェクト」の導入支援 ○今治タオルの産地の強化推進
- 今治海事都市構想の強力な推進による海事産業クラスターの充実
- △・関連産業のすそ野のさらなる拡大支援 ・国際海事展「バリシップ」の開催支援 ・繊維染色加工業の強力な基盤強化 ・県外からの就職や結婚で移住する人へ空き家等の斡旋機能の強化充実 ・女性の起業、女性起業家のスケールアップの支援プログラム「APIマバリ」 Acceleration Program in imabari for Women を検討 ・若い人を引き付ける「プラスアルファ産業」の創出・育成 ・コロナの時代の外国人技能実習生などの確保対策支援 ・サプライチェーン:市内回帰への支援 ・観光:水際対策の徹底と観光客が安心して観光できる環境整備 ・地場産業の事業承継など相談、支援の体制整備

### ◇トップセールスを具現化する地域版総合商社「今治あきない商社」(仮称)の設立

### ●農林水産業支援

- 地域農林水産物のトップセールスと、高速情報ネットワークの活用支援 ○地域の特色を生かした特産品づくりなど六次産業化の推進
- 農業・漁業:オンラインなど新たな販路拡大支援 ○鳥獣被害対策の強化充実
- △ ・JAなどと密な連携の下持続可能な営農ができる環境づくりの強力な支援 ・「食と農のまちづくり条例」を見直し、支援を徹底 ・新規就農の支援、耕作放棄地対策の強化

●雇用就業支援

○今治タオル人材の育成強化 ○障がい者施設からの優先調達と農福連携の促進による就労支援

○県立今治工業高等学校機械造船科の活動支援

○失業・求職者の就労支援の強化（ICTスキル等の職業訓練を通じた人材育成強化・マッチング等）

△・氷河期世代、現在の新卒・在学生世代の市役所採用強化など集中的支援 ・市役所業務への学生アルバイトの積極活用 ・フリーランス事業者の市役所発注業務への参画支援 ・オンライン就活支援 ・副業など多様な働き方の強化

●「スマート今治」の推進

○5G 通信基盤の整備、5G・IoT 技術の開発支援、ロボット等を活用した非対面・非接触モデルの導入支援

○4 つのレス：ペーパーレス（ファックスレス）

△・テレワーク・オンライン学習・オンライン診療・行政手続のオンライン化を加速 ・プライバシーに配慮したデータの活用による感染症対策の強化

●ICT/AI・Society 5.0 人材の育成

○デジタル・ディバイドへの支援

△・ICT/AI 職業訓練の強化を通じた人材育成

**2 島と海と陸をつなぐ魅力ある“まちづくり”、“産業づくり”、“人づくり”の推進**

●自分達のまち”を自分たちの手で ～ 地域コミュニティの活性化

○共助社会づくりの中核を担う町会、自治会、商店街を全力支援

○専門家がボランティアで問題解決を支援する「地域の課題解決プロジェクト」を設置

●大丸跡地など中心市街地を再開発し、生活、交通、仕事の拠点にリポーン（再生）

\*リポーン【reborn】：生まれ変わること。再生。

●新たなまちづくり

○通行料軽減を視野にしまなみ海道を島民生活を強力支援

○生活・仕事に関連する国道、県道の整備促進と市道の改良整備推進

○感染症に配慮した都市・物流・人流・交通政策 ○町会活動、公民館活動、老人会活動、消防団活動などで絆のまちづくり

△・生産拠点の国内回帰に際しての関連企業、オフィスの誘致強化 ・サテライトオフィス、産業・創業拠点力の強化 ・岡山理科大学獣医学部の周辺エリアを含む大学等を核としたまちづくり ・ゴミ問題、野犬対策など暮らしやすいまちづくり ・自転車通勤等の安全確保策の強化、駐輪場設置支援 ・公共空間を活用したオープンカフェ・屋外における飲食提供等の推進 ・地域自立活性化推進事業費の活用による特色有る地域づくり

●ゼロエミッション社会への移行

○「サステナブル・リカバリー」（持続可能性にも配慮した経済復興）の推進

△・家計・環境に優しい省エネ家電の導入促進 ・感染防止に資するゴミ分別の徹底

●スポーツ・エンターテインメント

○FC 今治と共に進めるまちの賑わいとスポーツツーリズムの推進

○パラ（障がい者）スポーツの支援強化・メジャー化

○5G 通信基盤の整備と併せ「今治サイクルシティ推進計画」のパワーアップ

○芸術・文化・スポーツによる魅力あふれるまちづくり

○障がい者を含めたeスポーツ振興

△・美術館や博物館をつなぐ参加型しまなみアートミュージアムの開催 ・歴史資源や国立公園内の資源を活用した、サステナブルツーリズムの推進 ・デジタル空間・VR等を活用したスポーツ・音楽・アート支援 ・スポーツを通じた免疫力の強化

### 3 人が集(あつ)まる、人が集(つど)う、文化と歴史が咲く、“i.i.imabari”のパワーアップ

●「今治マルシェ」(定期朝市)を今治港周辺で開催するなどし、人の動線を繋げ、商店街とみなと交流センター(はーばりー)の相乗効果を創出

●子どもも大人も楽しめる施設の整備

●しまなみ地域など地域の特色を活かしたワーケーションの受け入れ態勢整備促進でウィズコロナ、アフターコロナの時代に対応

●マイクロツーリズムによる新需要の獲得強化

●島しょ地域の産業や魅力を活かした振興

○ポストコロナを視野に島しょ地域の観光の振興を見直し

○島しょ部の魅力を生かした移住・定住政策の実行○空き家対策、活用対策の強化

○島しょ地域の魅力発信のための「島の宝発見推進委員会」の立ち上げ検討

△・基盤となる道路、教育施設などのインフラ整備の促進 ・島内の高齢者・介護へやさしい地域づくり ・島しょ地域の5G 早期整備の検討 ・航空アクセス、救急医療アクセスの向上、生活基盤の維持

●攻めの島しょ地域向け第1次産業政策を市政の大きな柱に

○IT活用、トップセールス等による販路開拓の実施

○耕作放棄地、遊休農地を視野に儲かる農業振興対策

△・新規就農の促進 ・島しょ地域の農業・漁業の振興のための基盤整備

●祭り、石文化運動公園、各種の美術館、博物館など文化と歴史を大切にすまちづくり ●関係施設整備、マナーの向上でサイクリスト受入環境整備の一層の促進 ●歴史文化資源と自然環境資源の活用による観光振興 ●民間、市民の主導で観光資源づくりを推進 ●観光施設、公園などのトイレ洋式化を早期の推進●海水浴場の魅力の再発見と情報発信の強化 ●航路活用のユニーク観光、将来はクルーズ船誘致で海の観光を振興 ●ウィズコロナ時代に対応したインバウンド対策の強化検討 ●漫画/ドラマの舞台地に活用し、観光振興 ●結婚したいと思う気持ちが起こるまちづくりと総合的な結婚支援 ●思い切った移住・定住政策の実行 ●危険な空き家対策の強化と空き家活用対策の強化

### Ⅲ「ひとりひとり」が輝く今治をみんなで作る

女性が輝く、子供が輝くために今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」を創設し、また、健康マイレージ事業の充実拡大で「健康・長寿」と、障がい者にやさしいまちづくりに取り組みます。防災・減災対策で災害に強いまちづくりも忘れてはなりません。

#### 1 女性が輝く、子供が輝くやさしいまち“今治”

◇今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」(仮称)の創設

- ・出産を控えているお母さん、子育て中のお母さん、お父さん、困っていることはありませんか？
- ・お母さんの声、関係機関や地域と連携を大切に出産、子育て支援策を「市民がまん中」視点で力強く推進
- ・子育て世代包括支援センターを中心に「お母さん会議」(仮称)の意見、要望を聞きながら地域の声、特性を踏まえて充実、発展させ、今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」(仮称)を創設
- ・保育所、幼稚園、児童クラブ、学校などと連携、こども施設、スポーツクラブなどと連携

#### ●子育て支援・女性の活躍支援

- 安心できる不妊治療へ支援を拡充、不育症治療支援を検討○子育て世代の経済的支援の強化
- オンラインの活用など、安心して妊娠・出産と健診・予防接種、仕事ができる環境の整備、妊産婦・乳幼児支援で女性がいきいきと輝き生活を創出 ○重度心身障がい児への支援強化
- ひとり親家庭等への支援 ○保育園・学校・学童クラブ等における感染予防対策の徹底
  - △・少子化対策の一層の強化 ・保育・学童の待機児童ゼロを軸に教育・保育の一層の充実 ・家庭における仕事と子育ての両立環境の整備促進 ・男性の育休取得・家事育児への参加の促進 ・子どもの放課後の居場所づくりの強化 ・児童虐待・DV・ハラスメント対策の強化

#### ●教育

- 一人一台の学習用PCの導入などで小学校ITC化推進 ○郷土愛を育む日本一おいしい給食の提供推進
- 小中学校のトイレ洋式化、エアコン設置の全校設置の推進
- 子どもの貧困対策、経済的困窮の家庭・学生への支援強化
  - △・草刈り等の学校関連の管理運営をみんなで考える体制を整備 ・標準的学習コンテンツの整備等によるオンライン学習の推進 ・学びの遅れを取り戻すサポートスタッフ設置の検討 ・ウィズコロナ時代、アフターコロナ時代の子どもの悩みにカウンセラー設置の検討 ・「今治型教育モデル」の構築:対面・オンラインのベストミックス・インクルーシブな環境・フリースクールなど学びの選択肢の多様化

#### ●島しょ部の教育環境の維持へ注力

- 大三島分校、伯方分校存続、地元中学進学など地元で教育の受けられる環境維持

#### ●多様な生き方の尊重

- 「ソーシャルファーム」の普及・拡大
- 「感染症バリアフリー」の検討:マスクや消毒液等の優先提供体制・透明マスク・接触が必須の障がい者への感染防止策・多様な申請手法・情報発信の最適化(手話や字幕の追加、音声認識アプリの活用)
  - △・就労困難者のテレワーク・オンライン業務の推進



## 2 「健康・長寿」と障がい者にやさしいまちづくり

- 健康マイレージ事業で健康、長寿、シニア活躍を促進
- シニア活躍
- 多世代交流拠点・地域交流スペースの整備
- スキルアップと企業とのマッチングによる就労支援の強化など
- 「予防」と「共生」のアプローチ強化
- ウィズコロナ時代・アフターコロナ時代を睨んだインフルエンザ予防接種助成の拡充
- がん対策の戦略的展開(早期発見・早期治療、緩和ケア)
- 認知症・介護・病気と仕事・社会活動との両立:柔軟な働き方と夜間休日診療体制の強化、ケアラーズカフェの整備支援
  - △・免疫力強化:フレイル予防・EIM(「運動は薬」)の強化(特に在宅や少人数の場)・各種高齢者施設の着実な整備
- 介護政策の一層の充実

## 3 防災・減災対策で災害に強いまち“今治”

- 感染症と風水害・地震などの複合災害への対応の強化
- 災害対策○防災行政無線の運用改善、防災ラジオの整備拡充で住民不安を取り除く
- 防災・減災関連インフラ整備のための調査、整備の優先実施
- 地域防災の担い手の消防団への強化促進
- 地震に備えた、燃えない・倒れないまちづくり
  - △・南海トラフ巨大地震に備えた対策・ドクターヘリの強化
- 避難所対策の充実・強化
- 避難所の感染拡大防止のためのトイレ洋式化、各種資材の配備促進
- 避難所、関連施設の補修整備の促進と避難時の市施設、ホテル等民間施設の活用の強化
  - △・避難所利用と在宅避難等の適切な機能配置の見直し

今治市の明日と未来の姿を、停滞か前進かを、市民の皆さんと一緒に決めたい、選択したい。  
徳永しげきは、全集中で取り組みます。